

第 2 回策定委員会（9/7）での主な意見

- ・宇治茶ブランドの確立と打ち出しが必要ではないか。全国のお茶の産地の中でも一段上ということをアピールしていかなければならない。
- ・新たな資源づくりも必要。宇治でないと得ることのできない新たな資源開発もこの時期だからこそできること。
- ・宇治にしかない強みをつくり、基本理念であげられるとよい。
- ・夜の賑わいについては、京都の三条木屋町のような賑わいではなく宇治市らしい静かな夜の賑わいが求められているのではないか。
- ・「おもてなし力を極める」ということを市民参加ありきで考えていきたい。最終的に関係人口に繋げていけるような観光だけに限定しない計画を策定できればよい。
- ・宇治に住みたい人を増やし、宇治で生涯を終えたくなるまちを目指してきたい。
- ・情報発信は地元の目線や日常感覚を置いていかなないようにしなければならない。SNSは多少の手づくり感があつた方が親近感がわくのではないか。
- ・コンテンツによってターゲットを設定し、アプローチの方法を変えていくことも必要。必要な人に必要な情報を届ける。
- ・SDGsの達成や2050年カーボンニュートラルの実現は意識しておく必要がある。
- ・大阪・関西万博の開催やJR奈良線の複線化、任天堂資料館（仮称）の完成を控える前期アクションプラン期間中には、インフラ整備は絶対に必要。
- ・多くの来訪者が期待される中、快適に周遊してもらうための整備も必要。
- ・旅行後も旅行者との縁を継続できるような土産物のインターネット販売の仕組みがあるとよい。
- ・近年、ふるさと納税は観光と連動してきている。現地に人が来なくても地域経済は潤い、今後の観光のきっかけにもなる。ブランド化と返礼品と観光戦略を掛け合わせていってもよいのでは。